

バルコニー漏水事故防止の決定版 防水と通気を両立

ハウゼサンエイ（大阪府大阪市、神戸睦史社長）はバルコニーの笠木下換気部材「アンタレス」の販売を強化している。納まりを工夫したことで、笠木下換気部材に求められる防水性と通気性を高いレベルで実現。さらにシンプルな納まりであるため、誰が施工しても品質が保てる。漏水・結露事故が多発しているバルコニーの笠木周辺の問題解決の決定版として、注目度が高まってきている。

バルコニーの笠木周辺で 漏水・結露事故が多発

バルコニーの腰壁の笠木周辺は、漏水・結露事故が多発している要注意箇所だ。検査・保証機関でも、窓まわりや、屋根と壁の取り合い部同様、事故が集中する要注意箇所として注意喚起している。

近年、住宅の外壁において通気工法が普及してきている。これに伴いバルコニーの腰壁部分にも通気層を設けることが多くなってきている。この際に問題になるのが、腰壁の笠木部分に設ける通気口だ。

通気の確保に重点を置きすぎると雨水浸入のリスクが高まり、防水に注力しすぎるとうまく通気を確保できない。まさに「いたし痒し」の状況に直面しているのだ。

また、笠木周辺は工程が入り組むため適正な施工が難しい箇所であることが問題を複雑にしている。加えて、これまで「決定打」といえる納まりが確立されていないことも事故多発の要因になっているという。

現在、最も普及している笠木周辺部の施工方法は、腰壁の上部にサイディングを捨て貼りして、その上から釘打ちして固定するというもの。

しかし、この場合、釘が腰壁の天端に貼った鞍掛けシートを破損。この部分に笠木と外壁の取り合い部、さらにはバルコニーの手摺や継ぎ目箇所から雨水が流れ込み、漏水事故の原因となる。

さらに、浸入した雨水が外壁の内部に滞留することで、寒暖の差による結露事故発生リスクも高める。

高気密化が進んだ現代の住宅では、いったん壁の中に水分が入ってしまうと抜けにくくなる。浸入した雨水や内部結露水などが滞留することで木部が劣化するリスクが高まっているのだ。

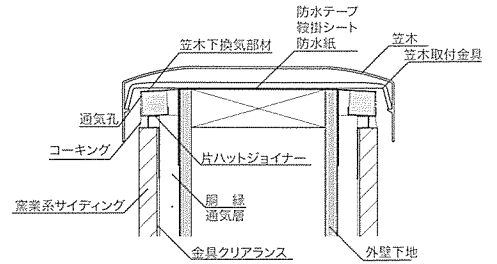
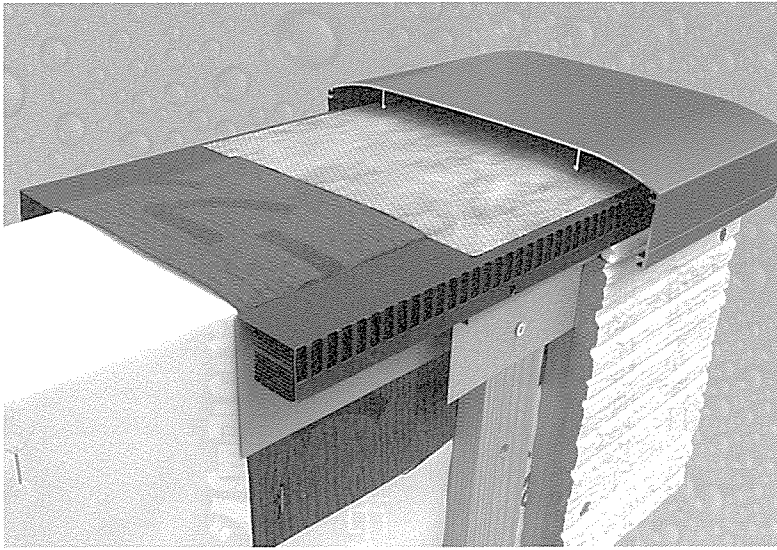
シンプルな構造で 優れた施工性も実現

こうした問題を受けて、ハウゼサンエイが3年前に開発したのが笠木下換気部材「アンタレス」だ。

バルコニーの腰壁部の通気性を確保する一方で、雨水を壁体内に浸入させない防水性にも優れている。

公的試験所での水密試験にも合格しており、第三者から高い防水性があると証明されている。

シンプルな構造であるということも特徴のひとつ。神戸社長は「誰が施工しても品質が保てるように、シンプルなものを目指した」と話す。



納まりを工夫したことで、笠木下換気部材に求められる防水性と通気性を高いレベルで実施した。

2013年5月にアンタレスミニを発売。ユーザーの声をを受けて開発したもので、これを用いることで笠木の幅の厚みを変える必要がなくなる。



神戸社長は「誰が施工しても品質が保てるように、シンプルなものを目指した」と話す。

様々な納まりの笠木で漏水実験を実施 アンタレスの防水性の高さを証明

同社では、アンタレスの高い防水性を証明するため、様々な笠木周辺の納まりを再現した試験体を用いて送風散水実験を行った。

用意した試験体は、アンタレス以外に5つ。前述した、笠木周辺部の納まりとして最も普及している①「サイディングの捨て貼りして脳天釘打ちするもの」のほか、②「住宅金融支援機構の仕様書に対応したもの」、③「日本窯業外装協会(NYG)が定める笠木周辺部の標準施工に対応したもの」、そのほか「住宅事業者が採用していた仕様を参考にしたもの」が2タイプ。

送風散水実験では、これら5つの試験体に、送風散水装置を用いて、1秒当たり風速35㍑の風を当て、さらに1分間に4㍑の水を10分間吹き付け、外壁側とバルコニー側の通気層から入った水量を測った。

実験の結果によると、試験体①では、外壁側とバルコニー側の通気層から合計39ccの漏水量があった。試験体②では同44ccの漏水量が確認された。試験体③では同5ccの漏水量が確認された。そのほか「住宅事業者が採用した仕様を参考に

したもの」2タイプについては、それぞれ68cc、110ccであった。そしてアンタレスだが、同3ccと最も雨水の浸入が少ない結果となった。

コンパクトサイズの「アンタレスミニ」も発売

笠木下換気部材に求められる防水性、通気性を高いレベルで実現したアンタレス。納まりが非常にシンプルであり、施工性にも優れている。こうした優れた点がハウスメーカーや工務店からの支持を受け採用実績は急増している。2013年の販売実績は前年比の倍のペースで伸びてきている。

さらに同社では、ハウスメーカーなど、ユーザーからの「アンタレスよりも、もう一回り小さいものがほしい」という声を受けて「アンタレスミニ」を開発した。幅が大きめのアンタレスを施工する際には、バルコニーの笠木の幅を厚くする必要はあるが、アンタレスミニを用いることで笠木の幅の厚みを変える必要がなくなる。このアンタレスミニは、アンタレスの約3倍のペースで販売実績を伸ばす人気商品となった。

さらに同社では、数個単位のオーダーにも対応した邸別発送サービスも行うている。